

平成29年度天皇杯受賞者受賞理由概要  
むらづくり部門

「結い」の心でみんなでむらづくり

○集団等の名称 阿室校区活性化対策委員会（代表 後藤 恭子）

○所在地 鹿児島県大島郡宇検村

○受賞理由

・地域の沿革と概要

宇検村は奄美大島の西南部に位置し、険しい連峰によって近隣市町村と隔てられ、村の90%以上を山林が占めている。阿室校区は、焼内湾奥の村の中心部から入江伝いに車で約1時間走ったところであり、平田、阿室及び屋鈍の3集落からなる。

同校区は、古くから半農半漁で生計を立ててきた地域であり、現在の人口は220人程で、相互に助け合う「結いの精神」のもと、水産業と限られた耕地でサトウキビやタンカン、ニンニク等を生産している。

・むらづくり組織の概要

- ① 阿室小中学校が存続の危機に直面したことから、校区全世帯の意向調査を行い、平成21年に集落の区長などからなる「阿室校区活性化対策委員会（以下「委員会」という。）」を立ち上げ、同年10月から「親子山村留学（以下「山村留学」という。）」の取組をスタートさせた。
- ② 次に、山村留学をした世帯が校区内で生計が立てられる所得を得て、安心して生活できるよう、地域の農林水産業を振興する活動をスタートさせた。
- ③ 現在、委員会メンバーは41人で、平均年齢は47歳である。また、半数が女性、そして6割がI・Uターン者であり、地域住民の交流イベントを企画運営する企画班、山村留学希望者との連絡調整を行う山村留学班及び地域農業の活性化に取り組む農業班の3班を組織して活動している。

・むらづくりの取組概要

(1) 農水産業生産面

- ① I・Uターン者を地域農業の担い手として位置づけ、地域ぐるみで就農を支援すべく、耕作放棄地を再生し、I・Uターン者に農地を集積している。これらの農地において、亜熱帯気候を生かしたパッションフルーツ、フィンガーライム等を新規導入し、首都圏等へ販売している。
- ② タンカン共同防除班を結成し、校区内の防除作業を請け負い、労働力の補完体制を整えることにより高齢化が進む産地の再生に取り組んでいる。
- ③ I・Uターン者が水産業に従事し、村全体の水産振興に貢献している。
- ④ 途絶えかけていた在来ニンニクの生産、加工品などの特産品の開発により、地域全体の所得向上につなげている。

(2) 生活・環境整備面

- ① 山村留学世帯を受け入れる際には、受入用住宅の確保や保護者の就業先の情報を収集、提供するとともに、移住者に居場所と出番と役割をつくり、地元住民との交流の場を積極的に設けている。
- ② 校区が一体となって、子育て、教育、伝統文化の継承、自然環境の保全に取り組んでいる。
- ③ 平成22年以降の8年間で35世帯79人の移住者を受け入れ、校区の人口は220人前後で推移しており、高齢化率は21年の48.4%から39.8%に減少している。

・他地域への普及性と今後の発展方向

本取組は、極めて条件不利な地であるにも関わらず、住民が地域の将来に危機感をもち、地域一丸となってI・Uターン者を増やす活動を開始し、移住者を含めた地域全体のコミュニケーションを形成・醸成している事例であり、今後も取組の継続が期待できる。

人口減少社会の中で、地元住民と移住者との共働による地域再生は、全国の条件不利地におけるむらづくりのモデル事例になり得るものである。